

[科目区分]：大学院：教育実践高度化専攻

[授業科目名]：教員の成長と職業倫理

[登録学生数]：24

令和元年度 授業評価・授業研究報告

教育学研究科 池田 哲也

1 授業概要

この授業は、「教員のライフステージ」「職業倫理」「教員の成長(小中学校)」「教員の成長(高等学校)」というテーマによる、4名の教員でのオムニバス授業である。私は、「教員の成長(高等学校)」の4時間を担当した。

授業内容としては、1時間はある高校教師のライフ・ヒストリーを追いながら、高校教員としての成長を観察し、次の授業からは3回にわたって、現在の高等学校の課題を一つ取り上げ(今回は部活動)、アクティブ・ラーニングの手法を使って(今回はディベート)解決策を探る活動に取り組んだ。

2 授業評価の方法

授業評価の方法としては、各授業後に受講した学生から、授業の感想という形でフィードバックをもらった。以下、主な感想を挙げる。

○教員の成長について

- ・教員の多忙さが問題になっている一方で、仕事を任されたものとして感謝し、プラス思考で取り組むことが、自分のキャリアに結果として繋がるのだと感じた。
- ・「チャンスを生かしてステージ・アップを」という言葉が印象に残った。何事もチャレンジだと思う。受け身で仕事に向かうのではなく、やるからには積極的にやっていきたいと思う。
- ・これまで先生が蓄積されてきた、様々な資料を見せていただき、きちんと整理されているのに驚くとともに、一年一年と経験が次に生きる教材になっていることが多変勉強になりました。
- ・ある高校教師のライフ・ヒストリーを通し

て、自分自身のキャリアの見通しを持つことができた。

○ディベートについて

- ・正式な方法で(ディベートを)行ったことがなかったので、良い経験になりました。物事を両面からみるには良い手法と思います。
- ・論理的な思考力と、迅速な対応力が求められることを感じた。この二つは、これからの「生きる力」に該当するものだと思う。
- ・制限時間があるので、要領よくまとめたり、根拠を資料から探したりするのは、大変だった。協力してチームになるのは楽しく、聞き手を意識するのも新鮮だった。
- ・このディベートを行った上で、次はKJ法等で「どのように？」の部分を話し合うと現実的な深まりが出ると感じた。

以上から、教員が成長していくために、どのように自己研修していけばよいかについて考えを深めたり、新しい教育方法であるアクティブ・ラーニングの一つであるディベートの有効性について実感したりと、本授業の目的は達成されたと感じた。ただし、自由記述のみのフィードバックに終わってしまったので、今後は評価方法を更に工夫したい。

3 「地域社会を核とした教育と研究のつながり」について

担当が4回と限られているため、地域社会をフィールド・対象とした教育の取組を行うのは困難であるが、今後は、例えばディベートにおいて、より地域に密着した問題をテーマにするなどの工夫をしていきたい。